

重要文化財「日土小学校」の保存と継続的活用(八幡浜市)

【取組概要】

平成21年6月に修復工事が完成した日土小学校校舎は、平成11年ドコモ20選に選定され、平成24年11月にはワールド・モノメント財団／ノール モダニズム賞を受賞、同年12月28日には重要文化財の指定を受けた。全国から見学依頼が殺到しているが、現役の小学校として使用しているため、見学等については、自ずと制約する必要がある。通常、学校教育の場となっている校舎は、児童への影響を考え、原則非公開としているが、関心の高さを考慮し、長期の休みを利用し年3回日土小学校のすばらしさを、多くの方々に共感していただきたいという思いから見学会を開催し、重要文化財日土小学校を全国に発信している。

夏休み見学会は日本建築学会四国支部の「夏の建築学校」と共催で実施している。

【取組みの効果】

改修工事後の平成21年夏以降、17回の見学会にのべ3,918人が訪れた。決して交通の便がよいとはいえない場所であるが、毎回、市内、県内のみならず、遠く県外からも訪問者があり、多くの方が長時間、思い思いの場所で楽しげに過ごしている。

県外からの見学者比率は49.8%であり、多くの方が日土小学校の素晴らしさを感じている。

【他団体へのアドバイス】

学校建築が保存され、機能しつづけ、未来に亘って継承されてゆくことは、地域全体の未来を支える仕事となる。日土小学校の事例は、小規模校の保存・継承という、じつにささやかなものであるが、それが国の重要文化財として認められ、保護のシステムを勝ち取ったということの意味は大きい。国が認めたからありがたいというような意味ではなく、日土の事例が他市町の建築物保存のメルクマールとなればと考える。

当市の今後としては、日土小学校以外の松村建築(旧長谷小学校、川之内小学校、旧図書館、中津川公民館)の保存再生に取り組み、重要文化財日土小学校に連なる松村建築を顕彰し、守り伝えることにより、「地域全体の未来を支える仕事」をしていきたい。

【創意・工夫した点】

「環境が人をつくる」と言われるが、日土小学校の校舎は子どもたちの健やかな成長を育む上ですばらしい教育環境を創り出している。

「学校の主役は、子どもであり、先生である」という設計者松村正恒氏の思いが込められた校舎は、子どもたちの安全・安心を確保しつつ、各所に仕掛けられた豊かな空間が、好奇心や想像力をふくらませたり、心の安らぎを与えたりしている。

これらを感じていただくために、意匠などを50数年前の建設当時に復元している。

人口 37,077人

担当部署 八幡浜市教育委員会 生涯学習課
取組み事例のURL

<http://www.city.yawatahama.ehime.jp/03jyouhou/syugaku/hiduti/hiduti.htm>



喜木川から日土小学校



校舎見学会受付の様子